

議 事 録

会 議 名	令和6年第1回半田警察署協議会（定例会）
日時・場所	令和6年3月11日（月）午後3時25分から午後5時00分まで ----- 半田赤レンガ建物 クラブハウスC
出席者	<p>1 委員</p> <p>天木 一貴委員 水野 良子委員 新海 正和委員 勝田 厚秀委員 佐々木 壽委員 鈴木 一郎委員 颯田 昌光委員 市脇 幸子委員 上野 公德委員 山下 平八郎委員 原 真理委員</p> <p style="text-align: right;">以上11名（定数12名）</p> <hr/> <p>2 警察署員</p> <p>堀署長 太田副署長 島崎警務課長 杉浦会計課長 加古生活安全課長 浅野地域課長 岡村刑事課長 伊藤交通課長 長江警備課長</p> <p style="text-align: right;">以上9名</p> <hr/> <p>3 有識者等</p> <p>なし</p>
諮問事項等	飲酒運転の抑止対策
答申等の概要	<p>1 自治体・関係団体と連携した「飲酒運転根絶BOX」の周知徹底と活用しやすさの向上方策の検討</p> <p>2 様々なキャンペーン等を活用した効果的な広報啓発活動の推進</p> <p>3 教育機関と連携した子供から親に対する意識付けを促進させる広報啓発活動の推進</p>
その他	次回開催予定 令和6年5月から6月にかけて

会議の経過及び発言の要旨	
1 役員選出	
	委員の互選により、天木委員を会長に選出し、会長は、新海委員を職務代理に指名した。
2 会長挨拶	
3 署長挨拶及び治安情勢	
	署長から、挨拶とともに管内の犯罪発生状況及び交通事故情勢と警察署協議会委員の選挙運動制限について説明があった。
4 令和6年速度取締指針に関する説明（交通課長説明）	
5 前回の答申に対する具体的施策の推進状況	
(1) 諮問事項	
	特殊詐欺対策について
(2) 答申事項	
	ア 家族、事業者等と連携した被害防止機能付き電話機及び同補助金制度の周知
	イ 被害防止機能付き電話機購入補助金制度未設置の自治体に向けた働きかけ
(3) 答申に基づいた施策の推進状況（生活安全課長説明）	
	ア 答申事項アについて
	○ 企業等の従業員に対する防犯講話
	○ 高齢者が来店する店舗と連携したキャンペーン
	イ 答申事項イについて
	○ 自治体の補助金制度未整備自治体への働きかけの実施
	記録者 警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
○ 補助金制度以外の施策働きかけの実施	
ウ 前々回の答申に基づく施策の進捗状況	
中学生の提言実現に向けた取組	
○ ポスターデザインコンクールの開催	
○ 中学生によるショート動画の制作	
○ 8月3日を「闇バイト加担防止の日」に制定	
6 諮問	
(1) 諮問事項	
飲酒運転の抑止対策	
(2) 諮問事項の設定理由	
飲酒運転が絡む交通事故（以下「飲酒関連交通事故」という。）のうち	
人身事故は、愛知県内では令和元年から令和4年まで減少したものの、令	
和5年は120件から141件と増加に転じた。一方、半田署管内では毎年10件	
前後の飲酒関連交通事故が発生しており、このうち、令和5年の人身事故	
は4件と少なかったものの、物件事故は20件近く発生した。	
分析によると、飲酒運転は特定の年代に限らないこと、道交法改正によ	
る安全運転管理者によるアルコールチェックが義務化により業務内の飲酒	
関連交通事故の発生はないものの、運転者全般に危機意識が低く、悪質性、	
危険性を広く周知する必要があることから諮問事項とした。	
7 協議	
委員 ・ 「飲酒運転根絶BOX」という一般からの情報提供を受ける場が	
あるが浸透していない状況を踏まえて、活用方策を検討する必要がある	
記録者	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
あると思う。	
委員	・ これまでもいろいろなキャンペーンなどの取組をしているもののゼロにならないし、検挙されているのも氷山の一角ではないか。
委員	・ お酒を提供する店として、店だけでなく客も守る「半田モデル」のような取組を検討してはどうか。
委員	・ 「ハンドルキーパー」という取組があったと思うが、もっと強調して広報し、周知徹底を図るようにしてはどうか。
委員	・ 客が飲酒運転をしたとなると、店もイメージが悪くなるが、客には言いにくいという事情もあることから、飲食業者が一体となって根絶大会を開催するよう提言してはどうか。
委員	・ 仲間内で運転手を決める、家族に送迎を依頼するという意識付けが必要だと思う。
委員	・ 呼気から酒気を検知するとドアが開かないとかロックされるなど、技術的に可能ではないか。
委員	・ お店のドアを開けたところやトイレといった、客の目に留まる場所、目立つ場所にポスター等を掲出して啓発してはどうか。
委員	・ レシートに「飲酒運転禁止」と印刷してはどうか。
委員	・ 観光協会が旅館・飲食業者を指導して積極的に送迎を行っており、地元での宴会では既に当たり前になっている。しかし、観光客には周知されていないようだ。
委員	・ 住民には自治体広報、回覧板で周知できるが、観光客には「飲酒運転根絶BOX」の周知と併せて、地元の施策を紹介してはどうか。
	記録者
	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
委員	・ コンビニエンスストアで酒臭のある車利用の客を通報するよう、店員に指導していくというのはいかがでしょうか。
委員	・ 「飲酒運転根絶BOX」はホームページを開かなくてはならない。SNS等、もっと簡単にできると良いと思う。
委員	・ 飲酒運転情報が収集されているという、飲酒運転は見られている、飲酒運転情報は提供されるという意識があれば、消極的ではあるが飲酒運転はなくなるのではないか。
委員	・ 県警としての飲酒運転根絶に向けた取組状況はどうか。
警察	・ 県下一斉取締について、交通部がSNSで取締実施に関する情報発信をしている。これは「飲酒運転根絶BOX」と同じ考えでの施策である。
委員	・ 「飲酒運転根絶BOX」を自治体と連携した啓発活動として、首長と飲食店業界も含めて飲酒運転根絶啓発ポスターを作る等のキャンペーン等の施策を提案してはどうか。
委員	・ 「ハンドルキーパー」では飲食店の協力を得て運転手へのドリンクサービスといった運転手にメリットのある取組を行えば、持続できるのではないか。
委員	・ 運転免許更新の機会に周知してはどうか。
委員	・ 高齢者であれば、講習を受ける自動車学校での広報も機会として適していると思う。
委員	・ 青色防犯パトロールの講習会等の防犯関係行事でも広報してはどうか。
	記録者 警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
委員	・ 飲酒運転をしてはならないという基本的なマナーについて、実際は守れない人たちがいる。こうした人たちは、家族が一緒にいても飲んでしまうという話があるので、家族がそれを止める役割を強調しても良いと思う。
委員	・ 交通安全教室で、横断歩道の渡り方を教えるのと同じで、学校で飲酒運転はいけないことと子供に教えれば、親がお酒を飲もうとするときに「学校で飲酒運転はダメって教えられたよ」と止めることもできるのではないか。
委員	・ 子供から言われたら、親も止めるのではないか。
委員	・ 防犯教室、薬物乱用防止教室も含め、子供が学校から家に帰って親に還元するような広報啓発活動はどうか。
8 答申	
(1) 自治体・関係団体と連携した「飲酒運転根絶BOX」の周知徹底と活用しやすさの向上方策の検討	
(2) 様々なキャンペーン等を活用した効果的な広報啓発活動の推進	
(3) 教育機関と連携した子供から親に対する意識付けを促進させる広報啓発活動の推進	
10 その他	
次回開催予定は、令和6年5月から6月にかけてとする。	
記録者	警務係長